

土・人・水

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766
www.midorinet-omachi.jp



大町市が市民参画と協働のまちづくりを推進するため、市民が行う花づくり活動に対し支援を行っている制度を知り、花づくり活動事業補助金に申し込み、去る5月22日、大町市土地改良区役員一同で大町市平小熊原の越荒沢堰沿いにある猫鼻の碑の横に芝桜の植栽を行いました。

この事業は大町市土地改良区で管理する施設用地内で、毎年度、繁茂する雑草の抑制と景観形成を目的に花壇づくりを行い、組合員相互の施設管理の大切さを学習し、併せて景観形成により、周辺を通行する関係者以外の市民の皆さんの目に触れることにより、癒し空間を提供する趣旨で取り組むこととしました。

連日、記録的な季節外れの暑さが続くなか、作業日当日は、曇り模様で比較的气温も低く、作業のしやすい環境でした。集まっていたいたいた13名の土地改良区役員と職員4名は、あらかじめ芝を剥ぎ耕起を行い、客土や施肥した箇所に防草シートを敷き、手慣れ



た様子で丁寧かつスピーディーに芝桜の苗400株を植える作業をこなし、予定した時間よりも早く作業を終えることができました。

今年の芝桜の見ごろは終わりましたが、来年以降きれいな花が咲くようしっかりと手入れをしていきたいと思います。この日植えた花が、立派に育ち、猫塚や公園を訪れる地域住民や来訪者の目に留まり、癒しとなれば幸いです。



大町市の学校再編事業により市内3つの小学校が合併して発足した北部小学校で5年生による米作り体験学習が始まりました。

昨年度まで当協議会では旧大町西小学校からの要請を受け、小学校内のハウスで育苗を行い、近隣の組合員の農地を借り受け、地主のご協力を得ながら米作り体験のお手伝いをしてきましたが、今年度から小学校の統合整備が行われ、旧第一中学校跡地に拠点が移ったため、体験に利用する水田を確保することに苦慮していました。幸い土地改良区の太田理事から提供の申し出があり、学校と相談した結果、北部小学校北に位置する水田で行うことが決まりました。

4月20日に種を蒔き、約1か月間育苗管理を行い、荒じろ体験を経て5月20日に田植えを行いました。現在の北部小学校5年生は99人と大所帯になり、役割分担など難しい面はありましたが、先生方の話をよく聞き、協力しながら、約4畝の田にもち米（品種：モチヒカリ）の苗の植え付けを行いました。

子供たちが丹精込めておこなった種まきですが、育苗の際、保管場所の温度管理や苗の水くれで、失敗してしまい、残念ながら一部病気がでてしまいました。子供達にとっては、どの作業



も慣れない初めての作業で、残念な気持ちや悔しさは残ると思いますが、これを機に普段はあたりまえに食べているお米のありがたさや、育てることの難しさを大いに感じてもらえたらと思います。

これから9月の収穫まで長い道のりですが、子供たちが一生懸命に植えた苗が立派な稲となり、たくさんのお米を実らせることが今から待ち遠しく、子供達には、収穫の喜びを思う存分味わってもらいたいと思います。

最後に、毎年種もみの供給をいただいているライスファーム野口さん、急きよ不足分の苗の提供をしていただいたJ.A大北さん、体験学習の田をお貸しいただき、田の管理をお願いする俵町の太田満さんにあらためて感謝申し上げます。

第6回 ため池を再生しよう

秋の収穫を無事終え、農繁シーズンもひと段落となった去る10月24日に、大町市の中山高原居谷里地籍の湧き水を水源とする「居谷里ため池」で、第6回目となる景観整備イベントを開催いたしました。イベント当日は、関係機関と市内から集まった総勢約40人が3つのため池と隣接する遊歩道で、草刈りやごみ拾い、流木の撤去などの作業に汗を流しました。晴天にも恵まれ、作業しやすい環境下で約1時間、力を合わせて作業を行いました。作業完了後は、農産物や作業用品等の景品がある抽選会を行いながら、おこしとして、事務局で用意した豚汁とおにぎりを食べて、参加者どうし交流を深めていただきました。

交通の便が今ほどよくない時代、人々は手軽に遠方へ旅行に行ったり、レジャーに行ったりするのは困難でした。その中で、ため池は、農業だけでなく、家族や子供の遊び場や憩いの場として人々の生活に密着してきました。時代が進むにつれ、ため池の役割も減ってきていますが、このイベントを通して、人々の生活の礎であるため池の元の姿を後世に引き継げるように、継続して本イベントを開催していきたいと思っています。

なお、令和8年度の本イベントにつきましては、10月22日(木)午前8時より、平二ツ屋と大町大原町にまたが

る「大原ため池」で開催する予定です。たくさんのご参加をお待ちしております。



節水にご協力ください

梅雨が明け、出穂の開花前のこの時期は、こまめな水利調整が必要になります。かんがい用水の利用時間帯によつては、水路の末流で水が不足する場合もあります。特に今年は、降水量の減少等による全国規模の水不足が春先から懸念されております。また、大町市の東側山麓地域では昔から居谷里の湧き水と、安定した水量の確保が難しい山麓沿線の沢水を利用したうえ、番水制により田に水掛けを行っていません。

これからの時期、大雨による増水がない時は、沢水も湧水も大幅に減少し、

この影響で各水路に取水する河川流量(籠川、鹿島川、農具川)も減少するため、農産物の生育に十分な安定した水路流量の確保は困難となることが予想されます。我々としても、農作物に影響が及ばない様、補給水の確保と計画的な配水ができる様、努力してまいります。

最後に、水資源の豊富な大町市とは言われますが、時期によっては不足することもございますので、その貴重な水を利用するという意識に立ち、お互いが譲り合って、有効な水利用ができるようご協力をお願いいたします。

8月1日は「水の日」です

川の水は、山々に降った一粒の雨から始まり、大地にしみこみ、湧き水や小さな沢となって集まり、やがて大きな流れの川となり田畑を潤し、木々や草花を育て、生き物に命を与え、私たちの飲み水や生活水となって、静かに暮らしを支え続けてくれています。

川の水は敏感で、気候の変化や森や里山の変化に応じて水が多すぎて災いになることもあれば、少なすぎて田畑や生活を脅かすこともあります。また、かつてきれいだっただけの水が濁り、生き物の姿が減ってしまう場所もあります。

だからこそ、私たちは、水だけでなく、その源である雨や森や土、そして水の流れを育む地域の暮らし全体を見つめなおし、大切な水の巡りを守っていく責任があります。川をよごさない

ことや水を無駄にしないことだけでなく水が生まれる山々と私たちが暮らす街が水の流れで繋がっていることを思い、そして8月1日の水の日をきっかけに、一年を通じて、川の流れに目を向け、耳をすまし、大切な恵みを次の世代に引き継いでいきたいものです。

ゴミ詰まり等にご注意を

今年は例年に比べ、5月から真夏日が続くなど厳しい暑さが続いております。暑い時間帯の草むしりや草刈りは極力避け、熱中症予防万全になるべく涼しい時間帯に行う様留意してください。

さて、気温が高く雨の多いこの季節は、草木の成長が早く、これに合わせて草刈り・剪定等を行う方も多々あります。また、この時期は、水路の水の調整やごみ上げの依頼などが多くなる季節でもあります。市内水路のゲートや水門、ゴミ取り柵など様々な仕掛けに家庭ごみや、刈草、枝葉などが詰るケースがよく見受けられます。水路等にゴミが詰まると、農地や宅地に水が溢れる原因となります。水路際での草刈りや剪定作業の際は、作業中の事故に十分ご注意くださいと共、刈草・枝葉をなるべく水路に流さない様ご配慮をお願いいたします。

大町市建設課・大町市土地改良区

長野県最初の耕地整理 ―海ノ口と中綱―

中部農具川が木崎湖へ流入する東西海ノ口集落の中央部に広がる扇状地は、ほぼ10アールに区画された長方形の水田が、中部農具川を間に二本の水路に沿って整然と並んでいます。古くから腰まで潜るような深い土壌で、畦畔が入り組み、牛馬が使えない湿田もあり、耕作が大変だったと伝えられています。明治三五（1902）年から5年間を要し、集落挙げて取り組んだ耕地整理の成果です。海ノ口公民館の脇に立つ記念碑には、その経過が詳しく書かれています。

江戸時代には、農民が耕地を改変することは厳しく制限されており、不便な土地を改造することも困難でした。明治になり、自由に開墾や整地を行える時代を迎え、生産性向上のために農地の拡大と耕地整理の必要性を痛感した政府では、農地区画の拡大と正形化と道路の直線化や効率的利水などを目的として明治三二（1899）年に「耕地整理法」を交付し、積極的に推奨しました。こうした背景の中で、海ノ口でも耕地整理の必要性を説く住民がいましたが、なかなか全体の理解を得るまでには至りませんでした。

このため代表が、先進地であった石川県河内郡かわのみの耕地整理を視察し、畦畔の減歩や効率的な給排水などの工法と



整然と区画された水田の効果や経費の調達について説明し、よく理解を得ることができま

した。明治三五年3月には、集落全体から地区代表10名を選出して委員会を組織し事務局を設け、実施に向けた取り組みを開始しました。

工事に要する費用は、長野県からの支援もあったようですが多くは借り入れで賄い、工事中で耕作できない土地については相互に補償しあったようです。沼地状の土質で大変な困難を伴いましたが、住民総出で畦畔を除去し、荷車や牛馬を使って土壌を移動しながら整地しました。水路は、西田堰と上田堰の幹線を中部農具川から引き入れ、南北に分支して畦畔を通し、1区画1反歩を基準とした水田が整然と並び、工事が竣工したのは、明治三九年12月のことでした。

同時期には、隣接する中綱でも湖岸の扇状地を対象に同様の手法で耕地整理が始まり、前後して同年11月に竣工しました。両地区でのこの耕地整理は、県内初の先進的な事業として内外から高い評価を受けました。翌四〇年3月には「その功績を讃える」として、海ノ口では、時の長野県知事大山綱昌が揮毫し、北安曇郡長が碑文を選定し、貴族院議員金井之恭が碑文を書いて記念碑を建立し、盛大な竣工式を挙行しました。

急激な少子高齢化の進行と後継者の減少、荒廃地の増加など現在の農業をとりまく状況は厳しいものがありますが、時代に先駆け、こうした先進的な取り組みを進めた地域があったことを大切にしたいものです。

（文責 荒井今朝二）



耕地整理前の
海ノ口集落絵図
（海ノ口 大久保浩志氏蔵）

第26回ふれあいイベント 「土・人・水」の報告と 第27回開催のお知らせ。

第26回ふれあいイベント「土・人・水」は、令和7年8月30日（土）に、平猫鼻の越荒沢親水公園で開催されました。

「越荒沢堰の清らかな水の恵みを未来へつなげよう！」という趣旨のもとに、例年実施している越荒沢親水公園の景観整備に加え、郷土史研究家の荒井今朝一さんに大町市の「水と郷土の歴史」についてお話をいただいた他、スイカ割や岩魚つかみ、稚魚の放流など子ども達を中心に盛り上がりました。

当日は晴天に恵まれ、怪我などもなく盛況のうちに終了となりました。

イベントにご協力いただいた各団体の皆様に改めて感謝申し上げます。

また、令和8年度も引き続き、当イベントを8月23日（日）7時30分より大町市平猫鼻の越荒沢親水公園で開催いたします。魚つかみを中心に、たくさんの方の企画を準備しておりますので、ご家族そろってご参加ください。参加費は無料です。詳しくは市役所掲示板のポスター、又はホームページ「水土里ネットおおまち」を検索してご覧ください。たくさんのご来場をお待ちしております。

◆お問い合わせ

水・土・里ネットおおまち事務局
（大町市土地改良区）
（0261）22・5542

水土里ネットおおまち地域用水対策協議会主催

第23回「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展

今回で第23回目を迎える子供絵画展ですが、今回は、大町西小と東小の生徒(現6年生)が米作り体験の稲刈りを水彩画と版画で表現、応募してくれました。どの作品も一生懸命に作業する姿がよく描かれていて、未来の礎となる子供達の気持ちが伝わり感銘をうけました。受賞作品をご紹介します。

会長賞



「稲刈り中」
大町西小5年生 おざわりの 梨乃さん

理事長賞



「たうえの絵」
大町西小5年生 きたざわ みゆ 美結さん

佳作



「稲を持つ人」
大町東小5年生 いしもりりこ 莉瑚さん



「収かく」
大町東小5年生 なかじま ゆうと 雄翔さん



「成長した稲」
大町西小5年生 かまくら みちなり 充成さん



「田植え」
大町西小5年生 すざき さいか 咲花さん



R8.3.24開催の授賞式の様子

ホームページもあります。
水土里ネットおおまち で検索
<http://www.midorinet-omachi.jp>

